

平成23年11月25日(金) 10:00~10:45

指導者 毛利 紀子

1 単元名 知りたい文字の世界「日本の文字と文化」

2 目標

- 生活の中で見られるさまざまな筆文字に関心をもち、書写学習に意欲的に取り組むことができる。(関心・意欲・態度)
- 筆文字のよさを知り、漢字や仮名の大きさ、筆圧に気を付けて書くことができる。(知識・理解, 技能)
- 生活の中で見られる筆文字の印象について話し合い、よさに気付くことができる。(思考・判断)
- 気に入った筆文字を参考にして、漢字や仮名の大きさ、筆圧を意識しながら罫に筆文字を書くことができる。(日常化)

3 指導計画(全3時間)

時数	学習内容
1~2(総合)	『はばたき作業所の人と交流しよう』 ・はばたき作業所の人と一緒に出来るお正月遊びを考え、交流の計画を立てる。
3~5(書写)	『日本の文字と文化』 第1時 見付けた筆文字の印象やよさについて話し合う。 第2時 気に入った筆文字を参考にして、字の大きさや筆圧を考えて書く。 第3時 筆文字のよさを生かして、罫の文字を書く。(本時)
6~10(総合)	『はばたき作業所の人と交流しよう』 ・交流の準備をする。 ・はばたき作業所の人と一緒に楽しくふれあう。

4 指導上の立場

- 本単元は、第3学年及び第4学年の内容(2)「イ漢字や仮名の大きさや配列に注意して書くこと」「ウ点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと」を受けて設定されている。

本単元では、総合的な学習の時間と関連をもたせながら、罫に好きな字を書く活動を設定し、書写で学んできたことを生活に生かすことをねらいとしている。総合的な学習の時間に、学校のそばにある授産施設「はばたき作業所」との交流をしている。日ごろから草取りをしたり、空き缶・段ボールの回収を手伝ったり、一緒に遊んだりして、次第に交流も深まってきている。そこで、冬に向けて交流する計画を立て、自分だけの罫を作って一緒に罫あげをすることにした。同時に、国語科書写では、日本の筆文字文化にふれあう活動をした後、毛筆を使って罫に自分の好きな言葉や短文を書くことにした。そして、できあがった罫を使ってはばたき作業所の人と一緒に遊ぶという構想である。

罫を作るという活動は、自分だけの罫だから納得のいくものを作りたいという目的意識が生まれ、意欲的に取り組むことができると考える。また、「日本の文字と文化」では、教科書の例を参考にしながら、身の回りにある筆文字を見付けたり、印象について話し合ったりする活動

に取り組みたい。そのことにより「流れるような筆使い」「崩したりつながったりしている」「のびのびと勢いがある」「筆圧を変えれば太くも細くもできる」「鉛筆やペンと違って、かすれたりにじんだりしていて面白い」「柔らかさや丸みがある」「大きく力強い」「表したいものの感じを出せる」といった筆文字のよさに気づき、自分も書いてみたいという意欲が高まると考えられる。そして、レタリングやデザイン文字とは違って、書写学習で学習した基本点画や筆圧や字配りなどを生かしながらも自由にのびのびと文字を書くことができるようにしたい。こうした活動を通して、書写作品のよさを見付けたり、書くことの楽しさを味わったりして、書写学習の日常化へつなぐことができるようにするために本単元を設定した。

- 本学級の児童は、書写の時間が楽しいと感じている児童が多く、めあてに沿って意欲的に取り組んでいる。また、友達や教師に自分の伸びをほめてもらったり、友達のよさを見付けて認め合ったりすることで喜びを感じている児童が多い。反面、ノートやテスト、連絡帳などの文字は丁寧に書こうとする意識が薄れて乱雑になっていることもあり、学習したことを生活に結びつけることは十分とは言えない。

これまでに児童は、「画と画との間」「筆順と字形」「点画のつき方」「ひらがなの筆使い」「文字の組み立て方」について学習してきており、学習したことを生かして自分で作った俳句や川柳を小筆で表した経験もある。しかし、文字の大きさがまちまちになったり、思うように書けなかったりして、筆で書くことは難しいと感じている児童も多にいる。そこで、本単元では、好きな言葉や短文を自分の気に入った筆文字を使って書くことで、上手下手という考えを越えて書写を日常生活に生かす経験をさせたい。そして、筆文字のよさや書くことの楽しさを味わうことができるようにしていきたい。

- 本校の研究テーマ「基礎・基本を身に付け、主体的に学ぶ子どもの育成—自ら学び、生活に生かす書写学習—」に迫るために、次のような工夫を行う。
 - ・図を掲示したり空書きをしたりして、姿勢や筆の持ち方、筆順などの基礎・基本を意識しながら練習できるようにしたい。また、線の太さや流れに気をつけて書くように声を掛け、太さと筆圧の関係や点画の流れ、勢いなどを意識しながら書くことができるようにしたい。さらに、練習では、字間や余白がつかみやすいように、色々な大きさや形の紙、文字や行の中心が分かる用紙、文字の大きさが分かるマス目の入った用紙、鉛筆で下書きをした練習用紙などを用意して、自分のイメージに合わせて自由に表現できるようにしたい。
 - ・凧を作る活動を軸に、総合的な学習の時間と関連させながら横断的に単元構成をすることで、意欲的に学習することができるようにしたい。また、自分だけの凧作りは、人と比べるのではなく書写学習に苦手意識をもった児童も楽しんで取り組むことができると考える。
 - ・隣同士でめあてを見付けたり、めあてがよくできているところを伝え合ったりして、相互評価することで上達した喜びを味わうことができると考える。また、できあがった作品をみんなで見合うことでお互いのよさを認め合うことができるにしたい。
 - ・はばたき作業所の人とお正月遊びをする計画を立て、凧の文字を筆で書いたりカルタを作ったりすることで、今まで学習したことを生活に生かすことができるようにしたい。この活動を通して、筆を使って文字を書くといった日本の伝統文化に触れることができると考える。

5 本時案 (第3時)

目 標	<p>○自分のめあてに気を付けながら、進んで凧の文字を書くことができる。 ○筆文字のよさを生かして、漢字や仮名の大きさ、筆圧に気を付けて書くことができる。</p>		
学習活動と予想される児童の反応	教師の支援 個への対応(◆) 評価(◇)	準備物	
<p>1 学習のめあてをもつ。 ・筆を使って思い切り書きたいな。</p>	<p>・前時の学習を想起し、和紙を使って凧に文字を書いて仕上げることを確認する。 ・前時の掲示物を提示することで、筆文字のよさを確認できるようにしておく。</p>	<p>前時の掲示物</p>	
<p>筆文字のよさを生かして、たこの文字を仕上げよう。</p>			
<p>(1) 自分のめあてを確認する。</p>	<p>・筆文字のよさに目を向けて、お互いのめあてを確認することで、友達の思いを知ったり、自分もがんばろうという意欲をもったりすることができるようにする。</p>	<p>まとめ書き 学習カード</p>	
<p>2 練習をする。 ・一生懸命練習して自分だけの凧を作ろう。 ・思い切り書こう。 ・思うように書けなくて難しい。</p>	<p>・筆文字のよさに目を向けて、お互いのめあてを確認することで、友達の思いを知ったり、自分もがんばろうという意欲をもったりすることができるようにする。 〔 流れるようにのびのびと勢いがある 筆圧によって太かったり細かったり かすれたりにじんだりして面白い 柔らかさと力強さ 雰囲気が出る ・姿勢・筆の持ち方などに気を付けるよう促す。 ・自分が作ろうとする凧に近い形で練習できるように、練習用和紙を用意し、繰り返し書いたり、墨の含ませ方や筆の運び方をつかんだりできるようにする。 ・めあてに沿って意欲的に取り組んだり、上手に書けたりしている児童を称揚し、意欲が継続するようにする。 ・よいところを見つけて認め、一人一人が自信をもってのびのびと書くことができるようにする。 ◆思うように書けず、戸惑っている児童には、練習用紙を渡したり、手を添えて一緒に書いたりする。 ◇自分のめあてに気を付けながら、進んで凧の文字を書いている。 (関/観察・発言)</p>	<p>筆の持ち方を示した図 練習用和紙</p>	
<p>3 まとめをする。 ・練習よりもうまく書けた。 ・友達もめあてどおりに書いてるなあ。 ・色々な筆文字があるな ・筆で書くのって、楽しいな。</p>	<p>・各自のめあてを確認して空書きをし、めあてを意識しながらまとめ書きができるよう意欲を高める。 ・自己評価を行った後、隣の児童と互いのよいところを伝え合って相互評価を行い、学習カードに書くようにする。 ・全体の場で友達の作品を見合い、感じたことを発表し合うことができるようにする。 ◇筆文字のよさを生かして、漢字や仮名の大きさ、筆圧に気を付けて書くことができている。 (日/まとめ書き・学習カード)</p>	<p>練習用紙</p>	
<p>4 次時の学習を知る。</p>	<p>・次時は作品を骨に貼り、凧を完成させることを伝え、次時への意欲がもてるようにする。</p>		